

薬学実務実習の概略評価の例示について（補足）

平成 30 年 2 月 28 日

薬学実務実習に関する連絡会議

薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成 25 年度改訂版)の F 薬学臨床では、これまで実務実習事前学習、病院実習、薬局実習と 3 領域に分かれていた目標を統一しており、実習生の評価についても、大学 - 薬局・病院で連携し、学習成果基盤型教育(OBE)の考え方に基づいて、実習修了時の目標到達度を適正に評価することが必要となる。

薬学実務実習に関する連絡会議においては、平成 28 年 11 月に「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」を取りまとめ、薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習における評価の観点や進め方等を例示したところであり、大学と実習施設との連携の下で円滑に評価を行うこととしている。

また、薬局及び病院において実務により即した評価を行うために、薬局実習については、日本薬剤師会が作成した「薬局薬剤師のための薬学生実務実習指導の手引き(改訂版)(案)」(平成 28 年 8 月)が、病院実習については、日本病院薬剤師会が作成した「病院実務実習の評価基準(原案)」(平成 29 年 6 月)が示され、トライアル及びそれを踏まえた検証が進められている。

本補足は、「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」の補足として、連絡会議が例示した概略評価と、日本薬剤師会「指導の手引き」、日本病院薬剤師会「評価基準」のそれぞれの概略評価との対応関係を整理したものである。これらを参考に各大学・実習施設でのトライアル(先行導入)を積極的に進めつつ、概略評価についてより具体的な検討を行い、大学 - 薬局・病院での一層の連携や特色ある取組に向けた準備に万全を期すこととする。

また、日本薬剤師会「指導の手引き」におけるパフォーマンスレベル表は、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習を薬局薬剤師業務に合わせた形式で表示しており、参考資料として本補足に加える。

なお、平成 30 年度のトライアル(先行導入)による評価を、大学・実習施設の実施主体間での判断の下で学生の本評価とする際には、実習生へ配慮しつつ適切に対応していただきたい。

<別添> 薬学実務実習における概略評価(例示) 補足

「日業手引きを参照した薬局実務実習評価例示」は、日本薬剤師会の「指導の手引き」の各STEPにおけるパフォーマンスレベルの「具体的目標」を基に、連絡会議の評価の観点(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応)に合わせて示したものである。

「日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示」は、日本病院薬剤師会の「評価基準(平成30年2月10日改訂版)」を、連絡会議の評価の観点に合わせて示したものである。

F 薬学臨床

G10 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

F薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること、前):病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項

(1)薬学臨床の基礎

G10 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【 早期臨床体験】 原則として2年次修了までに学習する事項

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)							
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs885	1				・早期臨床体験として、調剤見学ではなく、病棟業務、チーム医療、在宅業務などへの同行や見学など、臨床における薬剤師の活躍現場を見学する。 ・見学後に薬剤師の存在意義、重要性について討議する。								
SBOs886	2				・病院、保健・福祉施設などでのボランティア活動等を行い、その体験を通じて考えた医療の課題について討議する。								
SBOs887	3				・シミュレータを用いて、各自が一次救命処置及びAEDによる蘇生を体験する。 (実務実習に行く前にも、再度、一次救命処置及びAEDによる蘇生が実践できるか確認する。)								

【 臨床における心構え】(A(1)、(2)参照)

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)							
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs888	1				・患者及び医療従事者の倫理問題を含む事例を題材に、どのような行動をとるべきか、薬剤師の果たすべき責任について議論し、要点を整理する。								
SBOs889	2				・患者・生活者の生活習慣の悪い事例を題材に、健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)								
SBOs890	3				・病院、薬局実習を通して患者、薬局者、施設スタッフ、地域関係者等と関わり、医療人としての倫理観をもって相応しい態度でそれぞれの立場に対応、配慮して行動する。 (指導者は実習生の成長に応じ、随時形成的評価を行い、フィードバックを行うこと。)								
SBOs891	4							生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。医療関係法規を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。	患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を最優先して行動する。医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。さらなる患者ケアの向上に向けた自己啓発を行う。	患者・生活者の視点に立つ。日常の学びを振り返り記録し、省察する。	生命の尊厳を意識し、他者の人権を尊重する。薬剤師としての義務及び法令を遵守する。患者・生活者のプライバシーを保護する。	薬剤師としての義務及び個人情報保護に関して留意している。
SBOs892	5												
SBOs893	6												
SBOs894	7												

【臨床実習の基礎】

実施内容(例示)

概略評価表(例示)

	実施内容(例示)			概略評価表(例示)					
	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs895	1	前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に患者が入院してきたと想定し、退院までの患者の動きと薬剤師業務の関連を図示し、説明する。 ・病院と薬局の連携の必要性、可能性について、議論し、要点を整理する。 ・薬局に患者が処方せんをもって来局したと想定し、退局までの患者の動きと薬剤師業務の関連を図示し、説明する。 ・薬局に生活者が一般用医薬品を求めて来局したと想定し、退局までの生活者の動きと薬剤師業務の関連を図示し、説明する。 						
SBOs896	2	前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・薬局で実践する薬学的管理の意義を具体的な例を挙げて説明する。 ・病院では、病棟に常駐する薬剤師の意義を具体的な例を挙げて説明する。 						
SBOs897	3	前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤部門の構成セクションを列挙し、その業務内容と、それぞれの関連を議論し、要点を整理する。 						
SBOs898	4	前) 病院に所属する医療スタッフの職種名列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の各部門と職種を列挙し、薬剤師業務との関連を議論し、要点を整理する。 ・上記で題材とした患者事例を基に、入院から退院までの各部門の業務とその業務に關係する社会保障制度との関連を議論し、要点を整理する。 						
SBOs899	5	前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。〔B(3) 参照〕							
SBOs900	6	病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。							
SBOs901	7	代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。							
SBOs902	8	入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)							
SBOs903	9	急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。							
SBOs904	10	周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。							
SBOs905	11	終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。							
SBOs906	12	外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。							
SBOs907	13	保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。							
SBOs908	14	薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。							
SBOs909	15	来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)							

(1)、(2)、及び(3)の他の領域の評価に含まれる。

(2) 処方せんに基づく調剤

GIO 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

[法令・規則等の理解と遵守] (B (2)、(3) 参照)

						実施内容(例示)						概略評価表(例示)					
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階				
SBOs910	1	前)調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			<SBOs916-919,925-932と同時に実施する。SBO888,889もふまえる。>												
SBOs911	2	調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)			・薬局内の実際の書類や掲示等から薬事関連法規に規定された法的文書等を確認し、その記載、保存、管理を実施する。 ・薬事関連法規を意識して調剤業務全般を体験する。												
SBOs912	3	法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)															
SBOs913	4	保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。															

(1)の領域の評価に含まれる

(2)、(3)の他の領域の評価に含まれる

[処方せんと疑義照会]

						実施内容(例示)						概略評価表(例示)					
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階				
SBOs914	1	前)代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			・これまでの学習で修得した知識が実務実習で具体的な活用が可能か確認する。'代表的な疾患'全てについて症例等を利用して臨床現場での考え方をシミュレートする。												
SBOs915	2	前)処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。			・処方オーダリングシステム及び電子カルテのメリット、デメリットを挙げ、説明する。												
SBOs916	3	前)処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			・'代表的疾患'の模擬処方せんに基づき、処方せんの監査を実施する。												
SBOs917	4	前)処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。			・処方せん監査の法的根拠を説明し、薬剤師の'責任'について具体的に説明する。												
SBOs918	5	前)処方せんの監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			・上記処方せんの監査から、疑義照会事例について、疑義照会を実施する。												
SBOs919	6	前)処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)			・疑義照会の法的根拠を説明し、薬剤師の'責任'について具体的に説明する。												
SBOs920	7	処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)						処方監査と疑義照会	処方監査と疑義照会を実践する。	患者個々の薬物療法におけるアウトカムを患者及び医療提供者と共有し、病状の経過・生活環境・ナラティブを考慮して、患者に提供される薬物療法の妥当性・適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性に気づき、実践する。	患者情報に基づき、処方せんの不備・不適切な点があれば指摘する。指摘した内容について疑義照会をし、その内容を適切に記録する。				
SBOs921	8	注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)			・実際の薬局処方せんを教材にして各記載事項の意義を確認しながら、処方せん監査を実施し、その妥当性を判断する。				処方監査:患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法の妥当性・適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性に気づき、実践する。	患者情報に基づき、処方せんの不備・不適切な点があれば指摘する。指摘した内容について疑義照会をし、その内容を適切に記録する。				
SBOs922	9	処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)							疑義照会:必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。最終的には、医師の処方行動に変容をもたらす。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法の妥当性・適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性に気づき、実践する。	患者情報に基づき、処方せんの不備・不適切な点があれば指摘する。指摘した内容について疑義照会をし、その内容を適切に記録する。				
SBOs923	10	薬歴、診療録、患者の状態から処方が必要であるか判断できる。(知識・技能)								患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法の妥当性・適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性に気づき、実践する。	患者情報に基づき、処方せんの不備・不適切な点があれば指摘する。指摘した内容について疑義照会をし、その内容を適切に記録する。				
SBOs924	11	薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)			・調剤業務の中で、薬歴やお薬手帳、患者への問診などから判断して、適切でないと思われる処方について疑義照会を体験する。					患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法の妥当性・適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性に気づき、実践する。	患者情報に基づき、処方せんの不備・不適切な点があれば指摘する。指摘した内容について疑義照会をし、その内容を適切に記録する。				

患者情報は、(2)患者対応及び(3)患者情報の把握に基づく

医薬品情報は、(3) 医薬品情報の収集と活用に基づく

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

<p>処方監査と疑義照会 B</p>		<p>患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断する。</p>	<p>医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査する。医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有(疑義照会を含む)する。</p>	<p>実習施設内で扱うすべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施する。</p>	<p>単純な処方箋(参照)および調剤薬の監査を行い、リスク回避のための対応方法を実施する。 処方内容を構成する医薬品の数が2~3種類と少ない処方、1つの疾患に対する処方</p>
<p>日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示</p>	<p>処方監査と疑義照会</p> <p>処方監査: 患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。</p> <p>疑義照会: 必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。最終的には、医師の処方行動に変容をもたらす。</p>	<p>明らかな疑義が無くても患者情報などを判断し、より良い処方を提案する。</p>	<p>患者情報や医薬品の情報を考慮して疑義照会を適切に行い、代替案を提示する。</p>	<p>医薬品の基本的な情報に基づき、処方に対する疑義の有無を判断する。</p> <p>患者情報とは、患者応対及び(3)薬物療法の実践患者情報の把握に基づく</p> <p>医薬品情報とは、(3)薬物療法の実践 医薬品情報の収集と活用に基づく</p>	<p>処方箋の形式上の不備が無いが確認し、処方箋に従って調剤する。</p>

【 処方せんに基づく医薬品の調製】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)							
		大 学	薬 局	病 院	大 学	薬 局	病 院	観 点	ア ウ ト カ ム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
SBOs925	1 前)薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)												
SBOs926	2 前)主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				・「代表的疾患」に使用される医薬品の主な商標名、剤形、規格などを列挙する。 ・監査を行った模擬処方せんに基づき、薬袋、薬札を作成する。								
SBOs927	3 前)処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)				・薬袋、薬札作成の法的根拠を説明する。 ・監査を行った模擬処方せんに基づき、調剤する(計数・計量調剤、注射剤、散剤、水剤、外用剤など)。								
SBOs928	4 前)後発医薬品選択の手順を説明できる。				・上記処方せんの調剤監査を実施する。								
SBOs929	5 前)代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				・調剤監査の法的根拠を説明する。 ・模擬処方せんに基づき、後発医薬品への変更をシミュレートする。								
SBOs930	6 前)無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				・配合変化の含まれる模擬処方せんを用意し、調剤監査を実施し、その理由を説明する。								
SBOs931	7 前)抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。(技能)				・注射処方せんに基づき、無菌操作を実施する。 ・抗がん剤の注射処方せんに基づき、ケミカルハザード回避において重要な基本的手技を実施する。								
SBOs932	8 前)処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				・ケミカルハザード回避のための基本的手技のポイントを説明する。								

【患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

		実施内容(例示)			概略評価表(例示)								
		大 学	薬 局	病 院	大 学	薬 局	病 院	観 点	ア ウ ト カ ム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
SBOs944	1												
SBOs945	2												
SBOs946	3												
SBOs947	4												
SBOs948	5												
SBOs949	6												
SBOs950	7												
SBOs951	8												

【医薬品の供給と管理】

		実施内容(例示)			概略評価表(例示)								
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs959	1 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。												
SBOs960	2 前) 医薬品管理の流れを概説できる。												
SBOs961	3 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。												
SBOs962	4 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。												
SBOs963	5 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。												
SBOs964	6 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。												
SBOs965	7 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。												
SBOs966	8 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。												

劇薬、毒薬、麻薬、抗精神病薬、覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品院内製剤、薬局製剤、漢方製剤の具体的な商品などの実物もしくは写真を基に、管理の流れと法規制、保存条件などの品質管理上の問題点を議論し、要点を整理する。

【安全管理】

		実施内容(例示)					概略評価表(例示)						
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs972	1												
SBOs973	2												
SBOs974	3												
SBOs975	4												
SBOs976	5												
SBOs977	6												
SBOs978	7												

(3) 薬物療法の実践

GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【 患者情報の把握】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)								
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階	
SBOs986	1				前)基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。									
SBOs987	2				前)患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3(2) 参照]									
SBOs988	3				前)身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。									
SBOs989	4				前)基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)									
SBOs990	5				基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)				患者情報の把握	患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。	把握した患者情報を、患者の環境、状態、必要性に応じて、医薬品の効果や副作用のモニタリングに活用し、継続的に収集・整理・把握し、薬物療法の評価に活かす。	他職種との情報共有の機会(回診、カンファランスなど)に積極的に参加し、情報の発信と共有により、患者情報の精度を高め、より多面的かつ正確に患者状態を把握する。	既存の患者情報から、必要性を的確に判断して、自ら医療面談や身体所見を得るための観察・測定等を実施し、全ての患者情報を収集・評価し、患者の状態を把握する。	患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査記録、お薬手帳など)から薬物治療に必要な情報を収集し、評価する。
SBOs991	6				患者・薬局および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)									
SBOs992	7				患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)									
					日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示			患者情報の把握		治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案する。	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握する。	収集した患者や医薬品に関する情報に基づいた服薬指導を行う。活用できた患者情報を他の薬剤師と共有する。	服薬指導を行うために必要な患者情報を収集する。収集した情報と服薬指導した内容を薬歴等に記入する。	
					日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示			患者情報の把握	患者情報の各種媒体を適切に確認・把握し、必要に応じて患者アセスメントを実施し、薬物治療に活かす。	薬物治療の評価に必要な情報を判断し、収集・整理することで、患者の状況を適切に把握し、薬物治療に活かす。	患者対応、他の医療従事者及び各種媒体から患者情報を収集し、評価する。	患者対応及び患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査値、お薬手帳など)から情報を収集する。 患者対応とは、(2)処方せんに基づく調剤 患者対応における患者からの情報収集に基づく情報	患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査値、お薬手帳など)から薬物治療に必要な情報源にアクセスする。	

【医薬品情報の収集と活用】(E3(1)参照)

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)							
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs993	1				薬物療法に必要な医薬品情報を収集するための情報源と得られる医薬品情報の特徴を振り返るために、医薬品とその対象疾患を指定し、主な三次資料、二次資料、一次資料を入手し、それぞれの情報源の違いを振り返る。 学習した新医薬品について批判的な視点からの紹介文書を作成する。								
SBOs994	2							医薬品情報の収集と評価・活用	薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。	調査の目的に合わせて、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集する。得た情報及び情報源については、常に新たな情報を収集・整理し、エビデンスを創出するよう努力する。医薬品情報の取扱いや評価について、後進の指導を行う。	調査の目的に合わせて、一次資料(原著論文)も含めた適切な情報源を利用し、調査を実践する。得た情報を量的、質的に評価し、提供する。患者啓発や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成・発信する意識を持つ。	調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、情報提供者のニーズを踏まえて、患者や医療スタッフに提供する。	薬物療法の評価等に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォーム、診療ガイドラインなどを確認し、情報収集する。得た情報の評価を行う。
SBOs995	3				施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、実際の患者、薬局者、施設スタッフに適切な医薬品情報を作成して提供する。 新薬や薬効別、後発品などの薬局で役に立つ医薬品情報をまとめる。								
SBOs996	4				施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、実際の患者、薬局者、施設スタッフに適切な医薬品情報を作成して提供する。 新薬や薬効別、後発品などの薬局で役に立つ医薬品情報をまとめる。 医師からの問い合わせに適切な医薬品情報を作成して提供する。 <SBO924、953~957、991、992実習時に並行して実施>								
SBOs997	5				施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、実際の患者、薬局者、施設スタッフに適切な医薬品情報を作成して提供する。 新薬や薬効別、後発品などの薬局で役に立つ医薬品情報をまとめる。 医師からの問い合わせに適切な医薬品情報を作成して提供する。 <SBO924、953~957、991、992実習時に並行して実施>								
SBOs998	6				緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)								
					日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示			医薬品情報の収集と評価・活用 CD		治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案する。	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握する。	文書および患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報への加工を実践する。	代表的な疾患の治療薬に関する情報(用法・用量、有効性、安全性、使用上の注意等)の収集と加工を実践する。
					日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示			医薬品情報の収集と評価・活用	薬物療法の評価に必要な情報について、最も適切な情報ソースを効果的に使用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報ソースを批判的に評価し、効果的に使用する。	一次資料を含めた情報を適切に評価し、目的に合わせて加工し、提供する。患者啓発や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成する。	調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、情報を必要とする相手のニーズを踏まえて、患者や医療スタッフに提供する。	薬物療法の評価に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォームに加え、診療ガイドラインなどを確認し、情報収集し、取捨選択する。	薬物療法の評価に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォームを確認し、情報収集する。

【 処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案) 】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)							
		大 学	薬 局	病 院	大 学	薬 局	病 院	観 点	ア ウ ト カ ム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
SBOs999	1												
SBOs1000	2				・「代表的な疾患」の具体的な事例を題材として、薬物療法を主体的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために薬剤師が行うべき薬学的管理をPBLなどで学習する。								
SBOs1001	3				・上記事例において、肝腎障害、妊婦授乳婦、小児、高齢者などの事例を用意し、具体的な処方提案を行う。 ・上記事例において、患者の栄養状態の評価から、輸液栄養療法、電解質の過不足を考慮した処方提案を行う。								
SBOs1002	4				・上記事例において、患者のアドヒアランスの不良による効果不足の事例を用意し、アドヒアランスの評価とその対処方法を提案する。								
SBOs1003	5				・皮下注射、筋肉注射、静脈内注射、点滴注射などの基本的手技を、シミュレーターなどを利用して学習する。								
SBOs1004	6												
SBOs1005	7							薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決	薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案、実践し、薬物療法を個別最適化する。	薬物療法や生活習慣の問題点を重要な性や緊急性を考慮して適切に識別し、現状評価を正確に行う。当該ケースにおける最善の解決策を見極め、提案する。	薬物療法の問題点を主体的に識別する。問題点の現状評価を明確に行い、処方設計や他の解決策について検討し、論理的で実行可能な解決策を明示し、薬物療法の個別最適化を実践する。	常に、有効性、安全性、経済性の観点から問題点の識別と現状評価を行う努力をする。処方設計を含めた解決策について、主体的に検討し、当該ケースの薬物療法の個別最適化に努める。	薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な処方設計を行う。
SBOs1006	8								薬物療法の問題点の評価は、(3) 患者情報の把握及び医薬品情報の収集と活用に基づく				
SBOs1007	9				< SBO920～924を基本とし、SBO952～957実習時に連携して研修する。> (処方監査、服薬指導時に同時に実施する。) ・「代表的な疾患」を有する患者の薬物治療に継続的に関わり、処方せんや薬歴、状態等の情報から、患者の病態を推察し、より有効で安全な薬物療法について考察する。 ・上記薬物治療の処方に適切でないと思われる所があれば、最適な薬物療法を考案指導者に提示し、必要があれば処方医に提案する。 ・上記薬物治療において、アドヒアランスに関する問題を発見し、収集した情報を駆使して考察し、解決策の提案を実践する。 ・上記薬物治療において、経済面での問題を発見し、収集した情報を駆使して考察し、適切な医薬品の選択・提案を実践する。								
SBOs1008	10												
SBOs1009	11												
SBOs1010	12												
SBOs1011	13												
SBOs1012	14												

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決D		処方医との治療薬物に関するモニタリング情報の共有や治療薬変更の提案を実践する。服薬指導した薬物治療に関する情報を分析し、他の薬剤師と共有できるように記録する。	薬物治療上の問題点を正確に抽出・解析し、問題点の対応策を提案する。	文書および患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報への加工を実践する。	医薬品に関する文書情報と患者から収集した情報から、患者の治療上の問題点の有無を指摘する。
-------------------------	--	---	-----------------------------------	--------------------------------------	--

日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示

薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決	患者の薬物療法の問題点の評価に基づき問題解決を実践し、個別最適化する。 薬物療法の問題点の評価は、患者情報の把握及び医薬品情報の収集活用に基づく	論理的で実行可能な解決策を明示し、薬物療法の個別最適化を実践する。	薬剤師の提案により実施した薬物療法の結果を評価する。	薬物療法上の問題点について現状評価を行い、処方設計を行う。	薬物療法の有効性、アドヒアランスや腎機能低下時の投与量などの基本的な問題点を抽出する。
------------------------	---	-----------------------------------	----------------------------	-------------------------------	---

【 処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価) 】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)								
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階	
SBOs1013	1				前)代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。									
SBOs1014	2				前)代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)									
SBOs1015	3				前)代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)									
SBOs1016	4				医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能)				薬物療法の効果と副作用モニタリング	様々なモニタリング項目から患者状態を適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。	薬物療法に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に評価して、処方設計や問題解決につなげ、薬物療法のPDCAサイクルを効果的に回し、薬物療法の質の向上に貢献する。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決につなげる。副作用を確認した場合は、副作用軽減化の対策を検討すると共に、副作用報告などの主体的な行動を取る。	有効性、安全性のモニタリングに必要な指標を継続的にモニタリングし、患者の状態を評価する。評価結果は、適切にカルテや薬歴などに記録する。	代表的な疾患を有する患者のケアに関わり、薬物療法の有効性、安全性を評価する指標を適切に指摘する。患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的な確認をする。
SBOs1017	5				薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実案ができる。(知識・態度)									
SBOs1018	6				薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)									
SBOs1019	7				臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。									
SBOs1020	8				薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。									
SBOs1021	9				副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。									
SBOs1022	10				薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)									
SBOs1023	11				報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)									
SBOs1024	12				患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)									
SBOs1025	13				医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)									

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示

薬物療法の効果と副作用モニタリングD		効果不十分や副作用発現時の対応を適切に実践する。	薬物治療の効果等に関して継続的な管理を適切に実践する。	代表的な疾患に関して、処方内容が適当かどうか、エビデンスに基づいて評価する。	収集した情報の薬物療法への活用を試行する。
有効性モニタリングと副作用モニタリング	薬物療法の経過の観察や結果の確認を実践する。	薬物治療に関する経過をモニタリングし、患者の状況を総合的に判断して、処方設計や問題解決につなげる。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決につなげる。有効性が不十分な場合や、副作用を確認した場合には、対策を検討する。	患者との面談や臨床検査値等の継続的なモニタリングを実践し、患者の状態を適切に評価し、その結果を適切に記録する。	薬物療法の有効性、安全性及び副作用を評価する指標を選択する。

日本薬剤師会が設定した各STEPにおけるパフォーマンスレベル

	目標	STEP4	STEP3	STEP2	STEP1	該当する 連絡会議「評価の観点」	該当する 改訂コアカリ項目
A （医薬品の調製）	製より本格的な医薬品の調製ができる	アドヒアランスを考慮し、新たに収集した患者情報や薬歴等を参照して医薬品の調製ができています。また、薬局で使用されるすべての医薬品やその他のアイテムを適切な手順で記録し、保管ができています。	複雑な処方箋であっても再現性よく、スムーズかつ正確な調剤ができています。個々の患者の病状や状態を確認し、調剤上の工夫を提案ができています。また、薬局で使用されるすべての医薬品を適切な手順で記録し、保管ができています。	一般的な計数・計量調剤や調剤上の工夫等の対応ができています。また、医薬品の性質を理解し、薬局の管理手順に従い供給・管理ができています。	基本的な処方箋の計数・計量調剤ができています。また、医薬品の供給について薬局内の基本的な医薬品の在庫管理ができています。	処方せんに基づく医薬品の調製 医薬品の供給と管理	(2) 処方せんに基づく調剤処方せんに基づく医薬品の調製 (2) 処方せんに基づく調剤医薬品の供給と管理
B （処方監査・医療安全）	たし医療安全の視点を考慮し	患者の病状の経過・生活環境・ナラティブを考慮しながら、処方の妥当性を判断ができています。必要に応じて、医療安全の見地からより適切な処方設計の提案ができています。	収集した患者情報（面談・薬歴・お薬手帳等）から得られる情報と薬学的知見を統合して処方内容の監査ができています。必要に応じて、自らの判断で多職種に情報提供ができています。インシデント事例発生後の対応について考察ができています。	基本的な医薬品情報および患者情報に基づいて、すべての処方箋と調剤薬に関して適切な監査ができ、必要に応じて疑義照会が実践ができています。またインシデント事例に基づいた防止策の提案ができています。	実習施設内の医療安全管理指針等に基づき、単純な処方箋について記載上の不備を指摘し、疑義照会すべき内容とその手順を把握し指導薬剤師の助言に基づいて実践ができています。	処方監査と疑義照会 安全管理	(2) 処方せんに基づく調剤処方せんと疑義照会 (2) 処方せんに基づく調剤安全管理
C （服薬指導）	た個々の患者の服薬指導が視座にたつ	個々の患者の身体状況や生活環境等、情報収集した内容を分析し、その結果から指導に必要な事項を導き出し、その患者に最適な服薬指導を行える。さらに収集した情報を検討して薬歴に記録し、薬物療法に活用ができています。	過去の記録、最新の医薬品情報および患者との面談から得られた情報を基に指導に必要な項目を抽出・分析し、服薬指導時に活用ができています。	患者と面談し収集した情報やさまざまな情報源から必要な項目を抽出でき、さらに服薬指導時に活用ができています。その結果を適切に記録ができています。	コミュニケーションの基本に基づき、患者から薬物治療に係る基本的な情報を収集し、薬物治療に係る基本情報を患者に提供ができています。	患者・薬局者対応、情報提供・教育 患者情報の把握 医薬品情報の収集と評価・活用	(2) 処方せんに基づく調剤患者・薬局者対応、服薬指導、患者教育 (3) 薬物療法の実践患者情報の把握 (3) 薬物療法の実践医薬品情報の収集と活用
D （処方設計と薬物療法）	薬物治療の経過に合わせた	薬物治療に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に判断して適切な対応ができ、より治療効果の高い処方提案ができています。	薬歴や服薬指導を通して、薬物療法の効果の評価し問題点（副作用など）を発見・抽出し、対応策の提案を実践ができています。また、それらの内容を他の薬剤師と共有するための記録が適切に実施ができています。	収集した患者情報および処方内容から薬物療法に係る基本的情報の加工ができ、医薬品情報や治療ガイドラインを参考にして、基本的な処方の想定と実際の処方内容から病態を確認ができています。	薬物療法の有効性、服薬状況などの基本的な安全性の問題点を認識し、一連の情報を整理ができています。	医薬品情報の収集と評価・活用 薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決 薬物療法の効果と副作用モニタリング	(3) 薬物療法の実践医薬品情報の収集と活用 (3) 薬物療法の実践処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案） (3) 薬物療法の実践処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）

このパフォーマンスレベル表は、薬学実務実習連絡会議にて、同会議が示した「薬学実務実習の評価の観点（例示）」別添「概略評価表（例示）」との整合が確認されています。